



会報

札幌くらぶ

2018年7月 第83号

編集・発行／札幌くらぶ 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付
ホームページ <http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/>

2018年度

札幌くらぶ総会の報告

去る6月23日(土)第610
回札幌定期演奏会終了後に、札幌
コンサートホールキタラ2
階会議室において、2018年
度「第23回札幌くらぶ総会」が
開催されました。

札幌くらぶ上田文雄会長
挨拶文

専務のご協力のもと、ともに進
めていきたいと考えます。

開会に先だって、進行役の定
政みち子事務局次長から、当日
の出席者が41名、出席できず
に委任状を提出した会員が74
名であることが報告されまし
た。

本日、2018年度の札幌く
らぶ総会の開催にあたり、急遽
欠席することについて申し訳な
く思います。本日、お集まりの
札幌くらぶの会員の皆さん、そ
して日々の運営について活動さ
れているスタッフの皆さん、本
当にありがとうございます。

つづいて、札幌の新専務理事
に着任された鳥居和比徒氏から
これからもご協力をお願いした
いとのご挨拶がありました。

札幌新専務理事 鳥居和比徒氏

いので、もっと広
く宣伝してはどう
だろうか?とご意
見があり、現在は
会場として豊平館
を使用しており、
80名の収容が限度
となつていてるこ
と、今後は市民交
流プラザの活用な
ど考えることなど
をお伝えしまし
た。

開会の挨拶は、急遽欠席とな
った上田文雄会長に代わって、
鈴木美保副会長が会長からの
挨拶文を代読するという形で
行われました。

また、3年間札幌交響楽団専
務理事として活躍された永井さ
んにもお世話になり、ありがと
うございました。新専務となら
れた鳥居さんには、札幌くらぶ
をよろしく願ひいたします。

その後、議事に入り、201
7年度の活動報告と2018年
度の活動計画について、西川吉
武副会長から一括して説明が行
われました。引き続き会計決算
報告および監査報告が行なわ
れ、その後2018年度の予算
案が提案されました。これらの
議案については若干の質疑を経
た後、参加者全員により一括承
認されました。

開会の挨拶は、急遽欠席とな
った上田文雄会長に代わって、
鈴木美保副会長が会長からの
挨拶文を代読するという形で
行われました。

これからは札幌文化芸術劇場誕
生を機に、札幌もキタラだけ
ではなく演奏形態も大きく変化す
ると思います。さらなる成長を
期待しております。私たち札幌
くらぶは、会員数約400名の、
札幌交響楽団の応援団でありま
す。道民や札幌市民に対してク
ラシック音楽を隔々まで届ける
活動を大切にして、楽譜支援や
ファン拡大や次世代を育てると
いった札幌くらぶの事業を、新

議案を説明する
西川副会長



会長の挨拶文を代読する
鈴木副会長



議案を説明する
西川副会長



総会議案の詳細については
折り込みの「総会報告」を参照
してください。

にて2018年度が無事発足し
ました。

意見交換の際に出席者から、
札幌くらぶサロンは内容がい

約80分の審議を経たあと、武
藤義典副会長の閉会宣言によつ
て総会は終了しました。

その後、役員改
選が提案され、上
田文雄会長をはじ
め八木幸三顧問、
鈴木美保・武藤義
典両副会長、西川
吉武副会長兼事務
局長、有田宏、井上
明子両会計監査の
再任が了承されま
した。会長指名ス
タッフとしては事
務局次長に6名、
会計担当、会報編
集各1名、運営
スタッフ15名が指
名され、総勢30名

8月〜10月定期演奏会 名曲シリーズ

演奏会を楽しく聴くために

八木 幸三(札幌くらぶ顧問)

第611回定期演奏会

8月24日(金) 19:00
8月25日(土) 14:00
指揮 尾高 忠明
ヴァイオラ 今井 信子

れた弦楽合奏が交互に歌い合
い、心を清めてくれることだ
う。

表現してくれるのか大注目だ。

■ウォルトン

交響曲第1番変ロ短調

■エルガー

チエロ協奏曲ホ短調
(ヴァイオラ版)

■ヴォーンウィリアムズ

タリスの主題による幻想曲

この曲のタイトルに入っている
トーマス・タリスは、16世紀
のイギリスで活躍した「英国音
楽の父」と呼ばれた作曲家。静
謐な主題が教會的な雰囲気とイ
ギリス的な雰囲気とを併せ持
ち、それが徐々に荘重なクライ
マックスを築き上げる。初期の
教會音楽によくある3群に分か

エルガー最後の大規模な管弦
楽曲となったこの曲は、ドヴォ
ルジャークのチエロ協奏曲に比
べ、管弦楽の力を控えめに組み
込んでいるため、室内楽のよう
なシンプルなオーケストレーシ
ョンという印象を与える。その
ためチエロの旋律線が明確に浮
き上がり、この楽器の魅力が効
果的に味わえる名曲となった。

今回は、この作品をカリスマ的
ヴァイオラ奏者、今井信子がどう

2つの交響曲を残したウォル
トンは、イギリス20世紀前半を
代表する作曲家。ベートーヴェ
ンを理想とした絶対音楽の大曲
をめざそうとした交響曲第1番
は、作曲が思うようにはかどら
ず、初演は第3楽章までしか演
奏されなかった。全曲が演奏さ
れたのは1年後である。

両大戦の狭間でつぐられ、ヨ
ーロッパを覆っていた時代の気
分を十全に反映しており、その
緊張した状況下を証言する傑出
した交響作品となっている。



尾高 忠明
©Martin Richardson



今井 信子
©Marco Borggreve

大震災と津波で亡くなった人
たちへの追悼曲として書かれた
この曲は、韓国のトンヨン音楽
祭の委嘱で作曲された。作曲家
は、災害と能「隅田川」のイメー
ジをベースにしたと言う。恒常
的に響く大太鼓が宇宙の鼓動を
表現し、旋律が静かな哀しみを
奏で、金管の咆哮が津波の悲惨

■細川俊夫

瞑想〜3月11日の

津波の犠牲者に捧げる

第612回定期演奏会

9月21日(金) 19:00
9月22日(土) 14:00
指揮 マティアス・
バーメルト

独唱 小林沙羅(ソプラノ)
三原 剛(バリトン)
合唱 札幌合唱団



マティアス・バーメルト
©Kim Haln

さや恐怖を思い起
こさせる。最後は
「祈り」で閉じら
れ、安らぎを感じ
させてくれる。

■ドビュッシー

管弦楽のための映像

「映像」と題する3つの作品
集を残したドビュッシーは、そ
の第3集を管弦楽のために書
いた。この第3集は「ジューグ」
「イベリア」「春のロンド」の3
曲からなっている。

「ジューグ」はスコットランド
の音楽を題材にしており、「イ
ベリア」は「街々より道へ」「夜
の匂い」「祭の日の朝」の3楽章
構成。この曲は、イベリア半島
のスペイン情緒から発想して
いるが、具体的な描写性はなく
作曲者が心眼に映じた印象的
なものだ。最後の「春のロンド」



三原 剛



小林 沙羅
©NIPPON COLUMBIA

は、フランスの古いロンド「わ
れわれは森へは行くまい」の変
形が現れ、妻エンマに捧げられ
た。

■フォーレ

レクイエム

フォーレの代表作とも言える
この作品は、作曲技法の上でも
中世カトリック教會音楽の強い
影響を受けた。音楽的に煩瑣な
規定や独特な表現の約束など多
くの制約を自然に受け入れなが
ら、しかも作曲家特有の近代的
叙情性の濃い、優雅清浄に満ち
た音楽を作り上げている。



小泉 和裕
©Ivan Maly



クララ・ジュミ=カン
©Marco Borggreve

第613回定期演奏会

10月26日(金) 19:00

10月27日(土) 14:00

指揮 小泉 和裕
ヴァイオリン
クララ・ジュミ=カン

■モーツァルト

歌劇「魔笛」序曲

作曲家晩年の傑作オペラ「魔笛」は、ジングシュピールという音楽を地の台詞でつなぐ単純な歌芝居の形をとったおとぎ話的内容。しかし、実にファンタスティックで、フリーメイソン結社の密議や思想とも密接なつながりを示し、奥深い歌劇に仕上がっている。そのためか、これまでに奇抜な演出や映画化も何度かおこなわれてきた。最近では、第1次世界大戦を舞台にルネ・パーペがダンディーなザラストロを演じた映画が記憶に新しい。

■ブルッフ

ヴァイオリン協奏曲第1番

ト短調

叙情的で優美な旋律でヴァイオリンの魅力がたつぷりと味わえるこの曲は、ブラームスやメンデルスゾーンと並び、ヴァイオリン協奏曲の中でも傑作中の傑作。旋律は、いくぶん感傷的な甘さがあり、ヴィルトゥオーソ好みの演奏効果がある。力強い主題を持った第1楽章に続き瞑想的な緩徐楽章、そして躍動的で華やかな盛り上がりをもせる終楽章へと続く。適度な超絶技巧を伴いながら楽器を十分に歌わせる美しい旋律をどうぞお楽しみあれ。

■ベートーヴェン

交響曲第3番変ホ長調「英雄」

第3番は、規模が非常に大きく古典派の概念を越える進歩的で劇的な作品。ベートーヴェンに悲劇が訪れ、「ハイリゲンシュ

タットの遺書」が書かれた時期に作曲されたこの作品は、ナポレオンへの献呈を前提としてつ

くられ極めて精神性が強い。それは、第1楽章冒頭でいきなり2つの主和音が鳴ったり、第2楽章で葬送行進曲が配され終楽章には、自作「プロメテウスの創造物」の主題が変奏されるなどベートーヴェンの強い意志が込められている。この作品によって交響曲というジャンルは、娯楽的な音楽から作曲家としての評価をも判断するような芸術的主柱となっていた。

名曲シリーズ

セプテンバーinロンドン

9月8日(土) 14:00
指揮 鈴木 秀美

■C・P・E・バッハ

シンフォニア ト長調

J・S・バッハの次男でバロ

鈴木 秀美



©K.Miura

正規のソナタ形式によっており、多くの楽想を持ちながら、それらを無駄なく用いて、少しの隙もない堅固な構成が実に見事。ハイドンは日記に「すべての観客も私も余すところなく楽しんだ。私はこの夜に四千ダルの収入を得た。これはイギリスだからこそ可能だった」と記している。

名曲シリーズ

フロンティアの彼方

10月13日(土) 14:00
指揮 秋山 和慶
ギター 村治 奏一

■テデスコ

ギター協奏曲第1番

この曲は、ハイドンをベートーヴェンに多大な影響を与えた「ハンブルク・シンフォニア」と呼ばれる6つの作品の第1番でバロック音楽のリトルネロ形式から古典派音楽のソナタ形式への歩みを示す構成など、彼独自の様式が明瞭に表れた名曲である。

ギター協奏曲と聞くとロドリゴの『アランフェス協奏曲』が有名だが、この曲はそれよりもやや早く完成し、初演の年も同じだ。ギターの名手セゴビアの依頼でつくられたこの曲は、爽やかで陽気な第1楽章、ロマンティックな緩徐楽章、そしてリズムミッドで勇まし第3楽章からなり、室内乐的管弦楽と絶妙なアンサンブルを聴かせてくれる。

■コープランド

エル・サロン・メヒコ

メキシコの民謡を素材とした単一楽章のこの作品は、メキシコ・シティにある同名のダンスホールを描写している。太陽がまぶしい南米を舞台にしているためか、陽気で躍動的な音楽がステージいっぱいにはじけられる。トランペットをはじめとする表情豊かな独奏も聞き逃さない。(写真協力 札幌交響楽団)



秋山 和慶



村治 奏一

©Satoshi Oono

■ハイドン
交響曲第104番「ロンドン」
百以上の交響曲を書いたハイドンの最後の交響曲であるこの作品は、作曲者の成熟を代表する最高傑作のひとつだ。終楽章は

楽員さんに興味津津 ⑬

チェロ奏者 小野木遼さんに聞く

♪ 北見と札幌を日帰りで

北見市出身です。3歳くらいまでは置戸町というところに行きました。その後北見市郊外の上常呂(かみところ)に移りました。小学校も中学校も上常呂でした。カーリングで有名になった常呂町とは違うところですよ。その頃、上常呂にはまだ「ふるさと銀河線」の駅があって、そこから北見北斗高校に通っていました。中学、高校時代は万年帰宅部でした。

5、6歳のころにはピアノを習っていましたが、長続きしませんでした。チェロという楽器

100%エネルギーをつぎ込んで



は前から知っていました。堂本光一のドラマで中谷美紀がチェリストとして出ていたりして、チェロにはすごく興味があったんです。6年生くらいの時には実際にチェロに触れたりしていました。スズキ(メーカー名)のチェロを借りたりして。中学生の時には、隣の津別町にセミナーにやってきました。日本フィルの方にいろいろ聞いたり、弾き方のアドバイスをもらったりしました。そんなことをしながら、楽しく弾いていました。チェロをちゃんと始めたいと思ったのは高校に入るところです。たまたまその頃、網走のエ

幼少期のピアノ発表会



コーセンターのこけら落としで、山崎伸子さんというチェリストの演奏会があったんです。この方はその後東京芸大で、私の先生になる方なのですが、この山崎先生との出会いがこの道に進む直接のきっかけになったと思います。「もし本当にチェロを正式にやりたいのであれば、東京に通ったりしななきゃだめだ

プロフィール

1987年北見生まれ。東京芸術大学を経て、同大学院修士課程を修了。PMF 2007に参加。2010、2011、学内で選抜され芸大室内楽定期に出演。第10回ピバホールチェロコンクールにて特別賞(井上賞)受賞。メルボルン国際アジア・パシフィック室内楽コンクール第2位。サントリーホールチェンバーミュージックアカデミー1.2期生。また、サントリーホールでのコンサートにおいてヴァイオリンの竹澤恭子、渡辺玲子、チェロのマリオ・ブルネロ、ホルンのラデク・バボラーから各氏と室内楽を共演。2016年にリスト音楽院セミナーにて最優秀受講生に選出され、2017年にハンガリーのブダペスト春の音楽祭にてリサイタルを開催。これまでにチェロを桜庭茂樹、山崎伸子、河野文昭の各氏に、室内楽を堤剛、若林顕、カルテット・エクセルシオの各氏に師事。Cello Ensemble XTCメンバー。札幌交響楽団チェロ奏者。

裏が一枚板のチェロ



よ」とアドバイスをいただきました。山崎伸子先生は指揮者の円光寺雅彦さんの奥さまです。その後、山崎先生から当時札幌の首席だった桜庭茂樹先生を紹介してもらいました。桜庭先生は現首席の石川祐支さんの前任に当たる方です。レッスンは月に2回、北見と札幌を往復しました。バスでもJRでも片道4時間半、往復9時間、そしてレッスンは3時間、よく通ったと思います。若くて体力があったからできたんでしょうね。自分でやりたいと思つて始めたことでしたので、やめたいとは思いませんでした。

私が入った時に楽器を新たに買ったのですが、その楽器の元の持ち主がたまたま石川祐支さんだったんです。いろいろ探して一番よかつた楽器が石川さんの「アントニアツィ」でした。当時私は石川さんのことを知っていましたが、石川さんは私のことを知らなかったと思

♪ 私の楽器は一枚板

芸大に入った時に楽器を新たに買ったのですが、その楽器の元の持ち主がたまたま石川祐支さんだったんです。いろいろ探して一番よかつた楽器が石川さんの「アントニアツィ」でした。当時私は石川さんのことを知っていましたが、石川さんは私のことを知らなかったと思

♪ おもしろい経験!

札幌に入つて4年になります。大学院を出てから数年間は東京でフリーでした。その期間にはいろいろなオーケストラに呼ばれてよく行きました。東京ではありがたいことに都響さん以外はほとんど全部行かせていただきました。地方では九響やPAC(バック)など関西のオケにも行きました。N響にも数多く呼んでいただきました。というのもN響はオファーが早く、6ヶ月くらい前には打診があるんです。「発注」が早いので、N響が多くなつたんだと思います。N響の過去の演奏が放送される時には、時々自分が映っていることがあるんです。「ああ、いるいる」っていう感じですね。学生時代から数えて東京に

10年ほどいたことになりました。東京は肌に合わなかつたなあという思いがあります。暑い中、楽器と衣装を持って歩き回り、さらに満員電車に乗らなければならぬ。それが本當に嫌でした。東京はフリーランスの音楽家にとつては仕事が多くあつてよいのですが、個人事業主みたいなものだから、いろいろ制約や不安があるんです。お金を借りられないとか、けがをしたらどうしようとか。腕や指を折つたらすぐに失業状態になつてしまいますから。そんな事をいろいろ考えていた時に、石川祐支さんから札幌へのお誘いをいただいたんです。



札幌メンバーと地方公演の合間に



ブダペストでのリサイタル

北海道は生まれ故郷だし、東京に比べて余裕をもって生活できるのではないかと思つて、オーディションを受けました。

そのオーディションですが、友人の家に2日間泊めてもらうことになっていました。ところが友人の急用で2日目が泊まれなくなつたんです。たしか8月1日だったと思いますが、PMFの最終日で国際芸術祭もやつていて、ホテルはどこを探しても満室でした。散々迷つた挙

句、中島園のラブホテルに一人で泊まることにしました。「こうこういう事情で怪しい者ではありませんから泊めてください」と言つたら、「いや、そんな荷物を持っていて怪しいよ」と言われましたが、なんとか泊めてくれました。このホテルは広かつたし、防音もしっかりしていたので、練習もできてよかつたです。おもしろい経験をしました。

♪ キタラに「ホーム感」を感じて

札幌は札幌で行われる演奏会はほとんどキタラです。これは本当に恵まれています。たとえば東京交響楽団のように本拠地がサントリーホールになつていたら、明後日はニューザ川崎、次は東京文化会館というように、

会場が毎回違うことがよくあるんです。これは結構なストレスになります。毎回こえ方が違いますから。その点札幌は芸森など別の場所で練習をしています。キタラへ行けばきつとこのように聞こえてくるだろうとわかります。

会場がほぼ一定していますから、移動のストレスもありません。このことはホールに対する「ホーム感」にもつながっていると思います。それに楽員のほとんどは札幌市内に住んでいます。そのせいででしょうか、東京に比べて皆さん余裕があつて、そんなにせかせかしていないような気がします。

一つのプログラムがあつたら、その曲に100%エネルギーをつぎ込んで練習して本番を迎えることができます。それが札幌のいいところだと思つています。

♪ ブダペストでブラームスを

作曲家ではブラームスとリヒャルト・シュトラウスが好きですね。ブラームスの交響曲では、

曲が始まっていいところで必ずメロディーをチェロに持つてくるんです。キタラの「リスト音楽院セミナー」で最優秀に選ば

二つの演奏会の曲を同時並行で練習しなければならぬ忙し

今回の札幌はいい指揮者を迎

えました。今まで通りひとつひとつに打ち込んで演奏していければいいと思つています。



中学生のころ
近所の川で父親と釣り

英語がいいか、ドイツ語がいいか、フランス語がいいか、イタリア語がいいか」と聞いていました。

趣味は釣り、川釣りが中心です。北見の実家の近くに常呂川が流れていて、子供の時からよくやつていたんです。ニセコの尻別川水系とか、三笠の夕張川水系とかに行つてみたいと思つています。先日積丹にブリを釣りに行きました。面白かつたのですが、ブリはすごく重くて次の日弓を持ってなくて弾けなくなりました。

札幌に入ってからで、一番印象に残っている指揮者は、やっぱりバーメルトさんですね。ジヨークは多いけれど、もちろん音楽に妥協はありません。バーメルトさんは私達たちには英語で話しますが、先日キタラのオルガニストに「話しかける時は

温泉にもよく行きます。下川町の「五味温泉」はよかつたですね。近場(北見の)でよく行くのは塩別の「つるつる温泉」、観光に来た人を連れて行つて、札幌近辺で一番評判がよかつたのは豊平峡温泉です。

♪ 珍しい曲も聴いてほしい

「札幌くらぶ」の会員の皆さんをはじめ聴衆の方に希望を言うとしたら、聴いたことのない曲や珍しい曲でも興味を持っていただけるとうれしいですね。これはなかなか難しいことだと思いますが、東京あたりだとクラシックファンの裾野が広いというか、分母が大きいので、聴いたことのない珍しい曲をプログラムに載せても「これを逃すともう聴けないかもしれない」と思つて「わつと」みんな来るんです。こういう曲は定期演奏会でなければ取り上げられないので、是非皆さんには興味を持って聴いていただきたいと思

演奏していても自分が貢献してい

演奏していても自分が貢献してい

担当/井上・中居・村山・塚田

第21回札幌くらぶサロン

勉強になる「札幌くらぶサロン」

ミニコンサートは白子さん

私にとって「札幌くらぶサロン」は、クラシックを勉強できる唯一の場所です。第1回目から参加していますが、故竹津先生のアーカイブはとっても勉強になりました。最初は古ぼけた喫茶店で開かれたのですが、音響効果が素晴らしかったと記憶しています。

サロンも回を重ねるごとに人数もふえ、場所も豊平館に変わりました。クラシック音楽については素人の私にも少しずつ音楽の良さが分かり、クラシック



白子正樹さんと新堀聡子さん

ネットを聴くのは2回目なので前回と違った演奏を聴けるのが楽しみでした。私の友人はクラリネットだけのミニコンサートは初めてだったので、感想を聞くと「素敵に聴こえた！今回も当たりだったよ！私は音楽に関してはまるっきり素人だけど、こうしてサロンに毎回参加させてもらっていると、今回も心に響くいい音だったし、いい

曲だった。すごく勉強になる。素人の私にはサロンで勉強できるのがうれしい！」と話してくれました。また、少し音楽のことが分かる人が「短く音を切るタンギングが上手だからロングトーンも自然と上手に吹ける。舌とリードの触れ方でタンギングは早くなるからね。」と言ったので、それで白子さんの「静」と

第22回札幌くらぶサロン

札幌文化芸術劇場の紹介と

吉田聖也さんの演奏

第22回「札幌くらぶサロン」は7月1日(日)、午後6時から9時30分ごろまで約3時間半にわたって、豊平館2階の広間に約80名が集い開催された。

まず、札幌市市民文化局の西野守彦さんから、来たる10月7日に柿落とし興行が行われる札幌文化芸術劇場 hitaru の工事経過等を含む劇場の概要と今後の利用等について、すでに竣工式を終えた内部の未公開写真などを見せていただきながら熱の籠もったお話を伺った。同劇場は、プロセニアム型の座席数2306席、1〜4階構造で、オーケストラピット(最大173席分)を有し、音響については最高水準の技術が注ぎ込まれた

「動」の音が出るのだと思いましたが、

彼はドイツに留学した時はドイツ語がまるっきり話せなかったそうです。それでも数多くの優秀な成績を修めたのは彼の努力の賜物だと思います。彼の更なる音の追求を次回の楽しみにしております。

会員／横山章子

ようである。

ついで、八木幸三先生から札幌のオペラ界の現況についてお話しがあり、現在、北海道二期会



hitaruの説明をする西野さん(左端)



れた概念を遙かに超える超絶技巧の妙技を繰り広げ、ピアノは伴奏の域を超え、コントラバスと一緒に音楽を創り上げる息の合ったアンサンブルの相手であったが、お二人は東京芸術大学同期の仲良しだと伺った。

このような素晴らしい演奏の余韻に浸るなか、お二人にも加わっていたら「交流パーティー」が始まった。お酒もほどよく廻ったところで、札幌コンマスの田島さん、ヴィオラの青木さんほか関係者から近く開催されるコンサート情報を聞きし、閉会した。

会員／川端智太郎

札幌室内歌劇場、北海道教育大学オペラ、LCアルモーニカ、オペラ・ファクトリー北海道等多くの団体が活動しているが、加えてPMFもオペラを上演したい意向とのことだった。ここで、「ミニコンサート」の準備のため、しばし休憩に入り、赤・白ワイン、ビールが注がれて一息。しばらくして、大拍手のなか、吉田聖也さん(札幌首席コントラバス奏者)と佐野主聞さん(ピアノ)を迎え、カルメンファンタジーほかアンコールを加えて7曲の演奏を聴かせていただいた。ここではコントラバスは、オーケストラの低音弦楽器として聴き慣

吉田聖也さんと佐野主聞さん

準備のため、しばし休憩に入り、赤・白ワイン、ビールが注がれて一息。しばらくして、大拍手のなか、吉田聖也さん(札幌首席コントラバス奏者)と佐野主聞さん(ピアノ)を迎え、カルメンファンタジーほかアンコールを加えて7曲の演奏を聴かせていただいた。ここではコントラバスは、オーケストラの低音弦楽器として聴き慣



マティアス・バーメルトさん首席指揮者に就任

4月17日にマティアス・バーメルトさんの正指揮者就任の記者会見があった。スイス生まれながら長くロンドンに在住、そして欧米はじめ遠くは韓国、豪州等五大大陸に跨る数々の演奏活動、インターナショナルな活躍を経て首席指揮者就任である。

昨年の会見では札幌の街の印象は「演奏会準備で忙しい」であった。定期演奏会のプログラムでは「札幌の街を知り、(中略)みなさまと親しくなっていく機会を持つことを非常に嬉しく思います。」と挨拶している。

4月21日の名曲シリーズでは、演奏の合間にドイツ語で曲の解説をしてくれた。これはバーメルトさんのアイデアといわれている。翌週の第608回定期演奏会はモーツァルトと、札



昨年の会見時のバーメルトさん

響としては1992年以来2度目の演奏である「アルプス交響曲」だった。巨匠が向かう音楽の大海原からどんなハーモニーが聞こえるか。新たな音の響きへの期待が膨らみます。

会員／塚田 総

定期演奏会の登場曲は

モーツァルトとアルプス交響曲

札幌は春の訪れと共に偉大なマエストロを迎えました。正にクラシック界のサラブレッドであるマティアス・バーメルト氏が札幌交響楽団の首席指揮者に就任してくれました。

定期演奏会として初のプログラムはモーツァルトの小編成のオーケストラとR・シュトラウスのフルオーケストラの対比が聴きどころか。プログラム前半のモーツァルト作曲、交響曲第29番はバーメルト氏ゆかりの地ザルツブルクで作曲された作品の為、定期演奏会初回に選ばれたのか、あまり演奏機会が多くない作品でした。若い10代のモーツァルトの作品らしく、あまり劇的な部分は無いものの端正でチャーミングな演奏でと

ても心地良いものでした。プログラム後半のR・シュトラウス作曲、アルプス交響曲は交響曲というよりもシュトラウス得意の交響詩の大作という感じが強い作品でした。コンサートホールだからこそ味わえたフルオーケストラの迫力やバンド演奏等、心が沸き立つ想いと感動にまつまれました。様々な珍しい楽器が使用され、ウインドマシンや一反もめん？を連想させるサンダーマシン等。特殊な打楽器も迫力があり、また、パイプオルガンの効果も加わりアルプスの自然や気候の変化を効果的に描いていました。特に嵐の描写ではベートーヴェンの交響曲第6番を更に発展させた感があり、まるで自分が本当にアルプスの



ユーモアを交えた解説

写真協力 札幌交響楽団



ウインドマシンの譜面

写真協力 札幌交響楽団

大自然につつまれている様な錯覚をおぼえました。

今回の定期演奏会を聴いて、札幌に来てくれたバーメルト氏に心より感謝すると共に、バーメルト氏指揮のもとで札幌交響楽団が世界中からさらに注目されるオーケストラに飛躍出来る事を願ってやみません。

会員／松岡 進

随想 本棚の隅から

懐かしい サンソン・フランソワ 21

五月の札幌定期演奏会は久しぶりにシヨパンがあるので楽しみにして出掛けた。

ピアノ協奏曲の一番は聴き慣れた曲だけど、生で聴くのは久しぶりだった。オーケストラだけの導入部がこんなに美しくなかったかな？と、うっとりとして心は若いころに戻っていた。

ロビーでCDを物色していたら、なんとサンソン・フランソワの協奏曲一番があった。あまりの懐かしさに、つい買ってしまった。サンソン・フランソワをCDで聴けるのは嬉しい。レコードしか無いと思っていた。

家に帰りよく見ると1965年録音で2011年リマスター音源使用とある。

彼は三回来日したのだけれど札幌に来たことがあるのだろうか？本棚を隅々まで捜したけれど、

ない。今回はリハーサル前に、ステージの裏側

アルプス交響曲では珍しい楽器が使われていた。日本に4つしかないといわれるヘッケルフォン。1904年に完成したダブルリードの楽器で、バリトン・オーボエともよばれる。使用される曲は極めて少ない。

アルプス交響曲では珍しい楽器が使われていた。日本に4つしかないといわれるヘッケルフォン。1904年に完成したダブルリードの楽器で、バリトン・オーボエともよばれる。使用される曲は極めて少ない。今回はリハーサル前に、ステージの裏側

うす紅色に染まって雲がながれる。眺めていると若い頃のあれこれ思い出す、戻りたいとは思わない。穏やかで豊かな今が好い。思い惑うことも無くて……

会員／井上明子

トロンボーン・リサイタルを聴いて

5月6日 キタラ小ホール

中野耕太郎さま
 念願のリサイタル開催と大成
 功、おめでとうございます。そ
 してありがとうございます。と
 も素敵な演奏会でした。

今年の1月の札幌くらぶサロ
 ンでヴァイオリンの飯村真理さ
 んからこのリサイタルの情報を
 お聞きした時に、会報のインタ
 ビューでの中野さんの言葉を思
 い出しました。

演奏者の想いや聴いてくれる
 人の反応がダイレクトに伝わる
 小編成で直接表現できるような
 活動をやっていきたい、クラシ
 ックを身近に感じていただくた

めの懸け橋になりたい、そんな
 内容でした。それが4年前のこ
 とです。それから心待ちにして
 いました。

プログラムの前半は、トロン
 ボーンとピアノ（水沼絵里香さ
 ん）だけの演奏です。最初の曲か
 ら引き込まれました。温かく優
 しく包み込むような音色。美し
 いメロディ。トロンボーンが主
 役でこんな音を奏でることので
 きる楽器だなんて思ってもみま
 せんでした。

私知っているトロンボーン
 のイメージは、音が大きく、華や
 かで強い音、またスライド操作
 を見るとそんなに速い動きはで

きないのでないかと、そんな
 感じでした。でも、思っていた
 ことと全く違いました。悉く違
 いました。特に『Ballade』は、
 委嘱作品だけに中野さんの想い
 やトロンボーンの魅力がいっぱ
 い詰まった曲で、アルト、テナ
 ー、バス3本を駆使した渾身の
 演奏でした。

後半は、ドビュッシーのピア
 ノ三重奏曲ト長調。チェロパー
 トをトロンボーンで演奏し、驚
 かせてくれました。最後はジャ
 ズ風な曲。ヴァイオリンの飯村
 さん、打楽器の大家さんも加わ
 り、リズムミックそれぞれの樂
 器との丁々発止のやり取りに、

耳も目も釘付けになりました。
 プログラムに今回のテーマは
 「トロンボーンの魅力と可能性
 の追求、そして挑戦！」とあり
 ました。まさにその通りの演奏
 会だったと思います。

会員／定政みち子

休むことなく出ずっぱりだっ
 た中野さん。アンコールのドビ
 ュッシー『Bau Soir』は、優し
 く美しいメロディが心に沁みま
 した。

編集後記

▼会報の写真担当が急用で、代
 わりに私が撮る事になった。被
 写体は小野木遼さん。張り切り
 過ぎと緊張が相まって写真の出
 来映えは今ひとつ。後日撮り直
 しをお願いをした。快くご協力
 下さり写真はもちろん、小野木
 さんの優しいお人柄にふれるこ
 とがで満足。
 （武田）

▼札幌文化芸術劇場の建物の姿が
 見えてきました。そのせいか最
 近オペラの話題で盛り上がる事
 が増えてきました。こけら落と
 しの演目はオペラ「アイダ」。
 このオケピに最初に入るのは
 札幌交響楽団です。とても嬉し
 い事です。観に行きたいファン
 が沢山いますが、悲しいかな、
 チケットの入手が非常に困難。
 悩ましい問題です。
 （上野）

ありがとうございました



札幌ヴァイオリン奏者 多川智子さん

6月30日をもって退団されました

スタッフの活動報告

- 4月7日（土）
 第21回「札幌くらぶ」サロン
- 4月23日（月）
 会報「札幌くらぶ」82号発送
 第1回運営会議
- 4月28日（土）
 札幌市内中学生吹奏楽部招待事業
 藻岩中27名 厚別北中30名
- 5月19日（土）
 札幌市内中学生吹奏楽部招待事業
 札苗北中43名
- 5月28日（月）
 第2回運営会議
- 6月18日（月）
 第3回運営会議
- 6月23日（土）
 2018年度「札幌くらぶ」総会
 札幌市内中学生吹奏楽部招待事業
 陵北中31名 栄南中52名
 平岡緑中38名
- 7月1日（日）
 第22回「札幌くらぶ」サロン

▼今回の会報には「札幌くらぶサ
 ロン」の記事を二つ載せました。
 サロンの報告をなるべく早くし
 たいとの思いからです。これま
 でサロンの開催月と会報発行月
 が重なる事が多く、記事の鮮度
 が下がってしまうのが気になっ
 ていました。次号からもサロン
 と重ならない月に発行できれば
 と考えています。
 （村山）